

## 「自然体験活動指導者養成研修（全体指導者）」

〈文部科学省委託事業〉

平成 24 年 9 月 15 日（土）～17 日（月）2 泊 3 日〈全体指導者〉

平成 24 年 12 月 8 日（土）～ 9 日（日）1 泊 2 日〈フォローアップ〉



### I 事業の背景（必要性）

平成 20 年度告示の学習指導要領では、「体験活動の充実」が改訂の要点とされ、同年策定された「教育振興基本計画」では、「小学校で自然体験・集団宿泊体験を全国の児童が一定期間（例えば 1 週間程度）実施できるよう目指すとともに、そのために必要な体験活動プログラムの開発や指導者の育成を支援する」と規定された。

しかしながら、近年の学校教育における集団宿泊活動の実施状況を見ると、必ずしも集団宿泊活動の充実が図られているとはいえない。その原因として、長期宿泊により教員の負担が増すという意識や、授業時数の確保や安全面への不安が課題として報告されている。今後、集団宿泊活動を促進していくためには、教員がもっている指導面の不安や経験の不足を解消し、安全・安心に、かつ効果的に体験活動を実施できる指導者の養成が求められる。

そこで、青少年の体験活動を安全・安心に、かつ効果的に実施する上で必要な知識や技能を身に付け、小学校等が実施する長期集団宿泊活動を含む体験活動の支援をする指導者を養成することを目的として本研修を企画した。

### II 事業の概要

#### 1. 趣 旨

教育施設や地域で行われる青少年の体験活動が、安全・安心に、かつ効果的に実施できるよう、体験活動に関する知識・技能を身に付けた指導者を養成することを目的とする。

修了者は、小中学校等の集団宿泊活動が円滑に行われるように教員等を補助する指導者として、文部科学省が推進する「自然体験活動指導者」に登録する。

#### 2. 参加者

##### (1) 対象・募集人数

【全体指導者】：青少年・学校教育関係者、その他自然体験活動に興味・関心があり、自然体験活動指導者として登録の意志のある者（18 歳以上） 30 名

【フォローアップ】：ボランティア（補助指導者）養成研修、全体指導者研修の受講者、中央青少年交流の家ボランティア登録者 20 名

##### (2) 参加状況

【全体指導者】 32 名（男 18 名，女 14 名）

〈所属別参加人数〉

| 所 属     | 人 数 |
|---------|-----|
| 学 生     | 12  |
| 教 員     | 3   |
| 青少年教育施設 | 8   |
| 行政職員    | 1   |
| 民間企業    | 3   |
| その他     | 5   |
| 合 計     | 32  |

〈地域別参加人数〉

| 地 域 | 人 数 | 地 域 | 人 数 |
|-----|-----|-----|-----|
| 静 岡 | 9   | 茨 城 | 1   |
| 神奈川 | 5   | 新 潟 | 1   |
| 千 葉 | 4   | 大 阪 | 1   |
| 東 京 | 3   | 長 野 | 1   |
| 埼 玉 | 2   | 岡 山 | 1   |

【フォローアップ】 12名（男7名，女5名）

〈所属別参加人数〉

| 所属      | 人数 |
|---------|----|
| 学生      | 7  |
| 教員      | 1  |
| 青少年教育施設 | 1  |
| 行政職員    | 0  |
| 民間企業    | 1  |
| その他     | 2  |
| 合計      | 12 |

〈地域別参加人数〉

| 地域  | 人数 | 地域 | 人数 |
|-----|----|----|----|
| 静岡  | 5  | 千葉 | 1  |
| 東京  | 2  | 新潟 | 1  |
| 神奈川 | 2  | 大阪 | 1  |

### (3) 広報の方法

#### 【全体指導者】

- ① 募集チラシを作成
- ② 近隣大学，近隣青少年教育施設，静岡県内福祉協議会，近隣公共施設（図書館・市役所・町役場）に案内を送付  
 ※近隣大学については，教育・教養・人文・福祉・人間系等，自然体験活動に関心が高いと予想される学生のいる学部へ直接送付
- ③ 地元新聞社に掲載を依頼
- ④ 当交流の家ホームページに掲載

#### 【フォローアップ】

- ① ボランティア（補助指導者）養成研修・全体指導者養成研修の受講者，中央青少年交流の家ボランティア登録者に案内を送付

## 3. 日程

#### 【全体指導者】

|             |                       |                |                    |                         |                        |       |
|-------------|-----------------------|----------------|--------------------|-------------------------|------------------------|-------|
| 9/15<br>(土) | 10:10                 | 10:20          | 12:20              | 13:30                   | 16:30                  | 20:30 |
|             | 開講式<br>おエンション         | 体験活動の<br>意義と展開 | 昼<br>食             | 体験活動の指導<br>ーレクリエーションー   | 体験活動の技術（野外炊事）          |       |
| 9/16<br>(日) | 9:00                  | 14:00          |                    | 14:30                   | 20:30                  |       |
|             | インタープリター入門<br>(途中，昼食) |                |                    | 休<br>憩                  | プログラムの企画・立案<br>(途中，夕食) |       |
| 9/17<br>(月) | 9:00                  | 12:00          | 13:00              | 15:00                   | 15:30                  |       |
|             | 安全管理と応急処置             | 昼<br>食         | 子どもの成長と<br>指導者のあり方 | が<br>イ<br>ン<br>ス<br>閉講式 | (解散)                   |       |

#### 【フォローアップ】

|             |               |         |             |       |          |        |           |
|-------------|---------------|---------|-------------|-------|----------|--------|-----------|
| 12/8<br>(土) | 10:20         | 10:30   | 12:30       | 13:30 | 17:00    | 18:30  | 20:00     |
|             | 開講式<br>おエンション | 講義・実習 I |             | 昼食    | 講義・実習 II | 夕<br>食 | 講義・実習 III |
| 12/9<br>(日) | 9:00          | 12:00   | 13:00       | 14:30 | 15:00    |        |           |
|             | 講義・実習 IV      | 昼<br>食  | 講義・<br>実習 V | 閉講式   | 解散       |        |           |

## 4. 内 容

### 【全体指導者】

#### (1) 「学校教育における体験活動の意義と展開」【講義】

講師：國學院大學 教授 宮川 八岐氏

- ① 学習指導要領における体験活動の変遷，自然の中で行なう長期宿泊活動の教育的意義についての説明があった。
- ② 子どもたちの現状をふまえ，講師自身の学生時代の生活を例にあげた具体的な講義により，長期宿泊活動の重要性を再認識するとともに，ねらいに沿った活動計画づくりの大切さを学ぶ場となった。

#### (2) 「体験活動の指導 ―レクリエーション指導―」【実習】

講師：コミュニケーションラボラトリー 代表 池田 雅彦 氏

- ① レクリエーションによるアイスブレイク効果とゲームのすすめ方について，実際に体験しながら学ぶことができた。
- ② レクリエーション等の活動だけではなく，言葉掛けやジェスチャー等，指導者の伝え方や導き方を工夫することによって，参加者の笑顔が引き出せることも実感した。

#### (3) 「野外炊事と指導者の基礎的なスキル」【実習】

講師：国立中央青少年交流の家 佐粧 和也

- ① 野外活動を行う際，指導者として必要な基礎的なスキル（話し方・立ち位置・安全指導等）について説明した後，小グループに分かれて野外炊事を実施した。習熟度別のグループに分け，かまどの組み方，は釜を利用しての米飯等，グループのレベルにあった活動を選択し取り組んだ。
- ② 実習後，各グループで活動を振り返り，野外炊事の教育効果について意見をまとめ発表した。



【野外炊事の教育効果についての発表】

#### (4) 「インタープリター入門」【講義・実習】

講師：財団法人キープ協会 増田 直広 氏

- ① インタープリテーション概論では，インタープリテーションについての基礎的な知識，プログラムデザインの方法等について説明を聞いた。
- ② 実際にフィールドに出て，インタープリターに必要な力やその役割について，ロールプレイを交えながら学んだ。



【インタープリター入門 実習の様子】

#### (5) 「プログラムの企画・立案」【講義・実習】

講師：財団法人キープ協会 増田 直広 氏

- ① 企画・立案の流れや方法について説明を聞いた後，小グループに分かれ用意された活動プログラムをもとに，企画・立案の実習を行った。グループごとにねらいに適したフィールドを選び，そこにあるものを活かした活動を考えた。
- ② 互いにインタープリターと参加者の立場を体験し，良かった点や改善点を話し合うことで，インタープリ



【プログラムの企画・立案の様子】

テーションについての理解を深めた。

#### (6)「安全管理と応急処置」【講義・実習】

講師：国立中央青少年交流の家 次長 小林 真一  
静岡医療センター看護学校 看護師長 小林 和美 氏

- ① 体験活動の指導者として、参加者の安心と安全な活動を提供するために必要な知識や技能について説明した。
- ② 危険予知シートを利用し、野外炊事の場面で危険だと思われる箇所を見つけだす活動を行い、リスクを予見し回避するための視点について学んだ。
- ③ 体験活動や屋外での活動中に発生しやすい傷病について、原因やその後の症状の変化について説明を聞き、応急処置の方法について、実際に体験しながら学んだ。

#### (7)「子どもの成長と指導者のあり方」【講義】

講師：静岡大学 教授 村越 真 氏

指示待ちの姿勢や何事にも中途半端な行動など、現代の青少年の抱える様々な課題について例を挙げた上で、人の行動を変えるためにはどうしたらいいかの説明があった。生活体験や人とのつながりの欠如による課題を克服するために、知識と現実を結びつける体験を取り入れた指導の重要性を学んだ。

#### 【フォローアップ研修】

#### (8)「ファシリテーション スキル」【講義・実習】

講師：プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 杉村 厚子 氏

- ① グループ内の信頼関係づくりに大切な「フルバリューコントラクト (Full value Contract)」「チャレンジバイ チョイス (Challenge by Choice)」の意義について、講義・実習を交えて学んだ。
- ② グループごとに企画を考え、指導者と参加者の両方の立場で実習を行った。実習後、各々のグループに対して良かった点や改善点を出し合うことで、ファシリテーションスキルの向上を図った。



【代表者による指導実習の様子】

## 5. 評価

### (1) 評価の方法

参加者全員にアンケートの実施

### (2) 結果

#### 【全体指導者】

##### ○事業全体を通しての満足度

満足・・・・・・・・・・20名 (63%)

やや満足・・・・・・・・・・12名 (37%)

##### ○自由記述

- ・「学習指導要領の内容や体験活動の変遷を知ることが、活動のねらいをしっかりと理解した上で指導にあたることができるようになるので、学校現場以外の職業をもつ参加者にとっても、たいへん有意義な講義であった」
- ・「子どもたちが体験する活動を実際にやってみることで、その活動の楽しさや有効性を体感する一方で、実際に企画・立案、指導することの難しさ、スキルアップの必要性を感じた」

- ・「講義だけでなく、実際に自分たちで企画をしたり、グループディスカッションをしたりする活動も大変有意義であった」
- ・「1つの研修会でさまざまな内容の研修を受けることができ、自分自身の視野を広げることができた」
- ・「日程が過密になっていたので、もう少し時間にゆとりをもって1つの内容をじっくり研修できればよかった」

#### 【フォローアップ研修】

##### ○事業全体を通しての満足度

満足・・・・・・・・・・・・・・・・ 5名（42%）

やや満足・・・・・・・・・・・・・・・・ 7名（58%）

##### ○自由記述

- ・「ファシリテーションスキルに特化した研修の中で、参加者と指導者の両方の立場を体験し、それに対する振り返りができたことがとてもよかった」
- ・「指導する側の体験をすることで、今の自分に足りないものやこれから力をつけていきたい力（知識・技能）が見えてきた」
- ・「参加者のニーズに合わせ、限られた時間の中で盛りだくさんの内容を行っていたので、時間的に余裕がなかったように感じた」



### Ⅲ 事業の企画と運営

#### 1. 企画のポイント

- ① 受講する参加者から、事前にどんなねらいをもって研修に参加するのかアンケートをとり、講師の先生に連絡することで、研修内容の充実を図った。
- ② 研修初日に、レクリエーション指導等のコミュニケーション力の向上をめざす講義・実習を組むことで、参加者同士が互いの思いや考えを伝え合い、より効果的に研修をすすめることができるようにした。
- ③ フォローアップ研修では、体験活動（グループワーク）の指導方法である「ファシリテーションスキル」を身につけることに特化した研修を企画することで、より実践力が高まるようにした。

#### 2. 運営のポイント

##### （1）研修時間の弾力的運用

プログラムの企画・立案等の研修では、参加者の実態により時間の調整が必要となることが予想されたため、講師と相談の上、臨機応変に昼食や休憩時間をとるようにすることで、より効果的に研修が進められるようにした。

##### （2）情報交換の場の設定

事前に自己PRを提出してもらい参加者に配布したり、昼食や研修終了後の時間等も参加者同士が交流できるよう場を設定したりして、それぞれの思いや日々の実践等、情報交換ができるようにした。

#### 3. 成果と課題

##### （1）成果

- ① 研修を通して参加者同士の絆が深まり、全員が前向きな気持ちで研修に参加できた。また、29名のボランティア登録者があった。
- ② 講義と実習をバランスよく取り入れた内容になったことで、新たな知識や技能を身

につけるとともに、現在の自分をもつ課題を明らかにする等、自己を見つめ直す場とすることができた。

## (2) 課題

- ① 研修の内容は充実していたが、時間的なゆとりがなく、過密な日程となってしまう。グループ活動を取り入れた場合、日程の組み方等に工夫が必要である。
- ② 参加者は研修会に様々な期待を抱いて申し込んでくる。参加者に講義のねらいや意図を理解した上で参加を求めるためには、講師との事前連絡を十分に図り、開催要項等で講義の内容について詳細に連絡する必要がある。

担当：佐粧和也，柴田勝好，中村匡寛